

---

# アカデミー争論

奈子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

アカデミー争論

### 【Nコード】

N5382U

### 【作者名】

奈子

### 【あらすじ】

シャルドネ・ガラ

16歳女子

ザールブルグ・シグザール王国・アカデミー生徒

成績は良くも悪くも平々凡々

が、とんでもなく派手服&amp;mp・独自メイク（パンダ目）な為か  
周囲から距離をとられている

本人いわく

『舐められるよりまし』

『商売は目立ってなんぼ』

『対人戦上等』とのこと

ヘルミーナを師と仰いでいるあたり、何か間違った道に進んでいる

## 入学（前書き）

シャルドネ<sup>II</sup>ガラ

生家は自給自足だったためそこそこの器用

【国宝虫の糸】の生成で裕福とは言えないまでも、生活には余裕があった

しかし近年、村近くの森で【国宝虫】が減少したため生産力急降下村の過疎化が進み、二年前から残っているのは、シャルドネ家とハーツという老夫婦の家のみという過疎化っぷり

加えて両親も過労がたたったか、天に召されてしまう

『こりゃーさすがにやばくね？』とシャルドネは一念発起

有るうことか、行商人から聞きかじった【錬金術師は儲かる】【錬金術で金塊が〜】という噂話を鵜呑みにし、残された織物、家財を売っ払い、アカデミーに入学

ハーツ夫婦の諫めも聞かず村を飛びだす

モットーは『目指せ！金塊！』

## 入学

晴れ渡る秋空

シグザール王国アカデミー

その壁に張り出された紙に連なる合格者の名前  
そこに受験番号

【520、シャルドネ・ガラ】  
の綴りを認めて

「ふっくっ…」

思わず高笑いしそうになった自分の口を、手で覆う

（いかんいかん

さすがに入学最初の一步ごときでいい気になってたら不味いわな…）

何せアカデミーは貴族連中やら大商人やらの息子娘が少なくない  
もちろんそうでない一般的な人々もいるが、それでも中流家庭以上だ  
ろう

（奨学金制度があるとはいえ、どーにもなあ…）

自分の衣服を見下ろしてため息をつく  
母から受け継いだ技のおかげで、繕いはなれたものであったが如何  
せん

（薄汚れてるわな…）村から首都に来るまでの旅路の荷を減らすた  
め、着回ししまくったためかヨレヨレである

かつ試験結果が怖くて、新たな服を揃えるなぞ論外であった

（入学金払ってスカピンギリやで

寮生活とかホンマ有難いけど

錬金用（魔術耐性有）の服とやらを買わんといかんとは…

ヘタに服やら買わんで正解やった…けど

周りと比べたらなあ

せめて上着くらい綺麗なの買えばよかったわな）

合格発表と共に張り出された、入学案内を見上げて思わず愚痴る  
ついで続きを読み進める

「乳鉢、ガラス器具

天秤、ろ過器、遠心分離器…などの錬金術に必要な道具は貸出し  
されているが、数が限られているため個人での所持が望ましい…」と

（うーむ）

ここに来るまでに、何故か雑貨屋のチラシが貼られ、錬金術師らし  
き人間がちよい古びた道具を露店で商っていたが

これが、これのせいかな！？

（ま、しばらくは無理だわな…

内職が金になってからだな）

はっはっは

金持ちなんて金持ちなんか

羨ましいんだよ！

受験票を携え受付に並ぶ

私は確認を終えるのが遅い人間に入るようで、すでに合格確認済な生徒の列があった

40人ほどを消化してようやく私の番

手続き（サイン）を済ませ寮部屋カードキーをもらいうけるだけだというに、無駄に疲れる

立って待つだけってアレだ

手続きを終え、一度宿に荷を取りに戻ってから寮に向かうと、なんかね、凄いわ

わたくしの荷物なんぞ、着替え、手布<sup>タオル</sup>二枚、洗面具、文具一式、裁縫具、ナイフ二本（料理用と伐採用）、火付け道具、小鍋（アウトドアに便利）、木製コップ、先割れスプーン…

と色々入ってるくせに10キロ以下な可愛い手荷物である意外なことに、他の多くの生徒も同じような量である

（一番少ないと思ったんだが…）

少し考えて思い当たった

アカデミー生食事タダだし、洗濯も金さえあれば人任せそれなんて至れり尽くせり

ならば日用品は最低限ですむ

家が近いなら服だって当座しのぎの持ち込みで無問題

夜間外出、外泊も許可とれば可能だし

加えて私みたいな地方からの受験者が多くないから…だろう

というのに

誰のか知らんが、衣装ケースで玄関が埋められてました

「入れん…」

「どここのバカだよ」

「貴族か資産家だろ」

「貴族ならなおさらアカデミーの内情知らんわけじゃないだろから  
家族が止めるべきだろに」

「もーやだー」

等々、私を含めた庶民派生徒の非難喧々哈々である

（む、あれか？）

無駄にゴージャスな宝飾品と刺繍で飾られた装いの少女が視界には  
いった

「わ、セリーアント・マリア」

私の近くにいた生徒の一人が彼女をみて呟いた

（知り合いか？）

「うそ？やだ！アカデミーに入ったの彼女？！」（有名人っぽい？）

「運悪っ」

（嫌われとる！？）

彼女には近づかないようにしよう

てか私みたいな庶民向こうも相手せんだろけど

セリーアント嬢の荷が馬車に積み『帰されていく』のを横目に、私  
はアカデミーの入り口から少々離れた場所で、荷物から水筒を出し  
て水分補給してました



いやはや

セリたんマジ貴族っ娘

馬車に紋章がついてるし

連れ歩く召使の服までどことなく良いモノだし  
ん？あれ？ちよい待てや

（あの紋章…は…）

仰々しく重々しく金ぴかな実に可愛く略図<sup>デフオ</sup>化された

（羊…だと！？）

羊の紋章イコール織物商工会所属のあの貴族

羊服のマーリア！

歴代はもとより現在進行形で変人男爵な通り名（称号）持ちなマーリア

現当主・男爵夫人（前男爵娘）は羊マニア、次期当主な息子は市場調査と称して街で大量に食い歩きする筋肉マチョフドファイター、次男は魔術研究と称して山籠もるアクティブ引きこもり  
ちなみに先々代男爵は三角で四角な男爵ならぬ男色とか  
故郷の屋敷の地下一室は歴代当主が集めた下着博物館とか

うん、わけわからん

でも仕事は完璧で容赦無らしいマーリア  
なので金はある男爵家マーリア

趣味？（偏愛）

仕事（精力的）

家族（溺愛）

がマリア家の常識らしいとのこと（商工会おっちゃん談）  
マリア家ばねえ…

「セリ嬢はその身内か…」

とすると、彼女にも何らかの偏愛趣味があるのだろうか？

## 入学（後書き）

シャルドネは無謀で貧乏くさいですが、入学当初はまとも

怪力？

「ちょ！？何故に！？」

（ありえん

マジありえん）

目の前に行くおねーさんを、思いきり指差して叫んじましたよ  
でも皆おねーさんの現状を見れば理解ってくれるはず

「ん？何かしら？」

「何？ツじゃねーとですよ

何故にそんな軽々と！？」

おねーさん…こと金髪美人な売店店員兼アカデミー卒業生ルイーゼ  
さん

ふわふわの外見からはとても力強くはみえない

てか寧ろ華奢すぎて、平均女性ん中でも非力に見えるんだが  
だというに

優に全部で百キロ超なレジエン石を詰め込んだ箱をひょいっと  
叫ぶだろ！

細マツチヨなの？

DV上等な鬼嫁候補なの？

天然怪力娘とか嫌だよそれ

とか、アホウな思考は

「ああ、箱に緑の石がついてるでしょ？  
これのおかげよ」

とのセリフに全否定されました

ヘーソーナンド  
て、それじゃーワカリマセン

「綺麗な石ですけども…」

「グラビストーンっていうの

グラビ（浮遊）石を素材にして、錬金術で浮遊の威力を高めた…らしいんだけどね」

「らしい…ですか」

「質がいいグラビ石って教材に回らないし、ここまで威力があるのはね…」

これもアカデミーからの借物だし」

「へー」

さいですか

ルイーゼさんによると、グラビ石の質がいいのって、山岳地帯の天辺らに行かんと取れんとのこと

調合の仕方によっても威力が変わるし

…面倒な

とはいえ、入学二月めの私らには、まだまだ先な話だと思われます  
一年め半年間は得意不得意関係無しで、基礎理論と汎用性の高い調合しかできんし

『欲しけりや作れ！』がアカデミーの共通認識だと思っているが、  
月々の素材申請限られているんで失敗してもアレだし、仕方ないのだ  
アカデミーは国から援助されてる立場らしいんで、無茶なことしたら目をつけられるしねえ

爆発物やら薬物やら扱ってるから、時には監査も入るらしいし  
なのでひたすら作り方が単純で調合が簡単で素材が安価な栄養剤とか  
研磨剤とかで錬金技術を上げる日々なわけです！

朝市やら売店で素材を仕込み、買取アイテムを売店に持ち込む日々  
なわけです！

なんて車輪操業

ぶつちやけ栄養剤つてキノコの冷やし汁ですよ？

研磨剤つて、石をとかく細かくするとか地味作業すぎですよ？  
でも買取額高いから許す！

## 怪力？（後書き）

寮暮らしで生活に支障はなくても、錬金術道具GETのため金作に奔走するシャルドネさん

いきなり公衆の面前で叫んでいても、まだまとも人間

色々すっ飛ばして、入学から一月と2週め

いきなりグラビ石とか（笑）

アカデミー売店で、栄養剤やら研磨剤の需要が高かったりするのは  
独断

栄養剤は研究者必須アイテムだし

研磨剤は作るの地味に面倒だし

アカデミー内とはいえ個人的な取引は、成績やら信用度が高くな  
らないと無理でしょうし

露店出そうにも、申請許可&amp;金が必要ですし

採算トレナイ（、、）

あとルイーゼさんマジ親切

## 錬金術は体力

何か図書室の片隅で拳動不審（というか妙に喜色満面）な女子学生を発見した

目の下に、目立つ隈が出来ていた

徹夜明けで、精神高揚状態にでもなっているのだろうか

それが研究に一区切りついたか、面白い発見でもしたか、スポン研究資金

サイ援助の目処がたったか

まあ、そんな貫徹馬鹿も3年もここ・アカデミーでいれば珍しいものではなくなる

初級の参考書を携えた一年生らしき人間は彼女を見てギョツとしていた

皆一様に学年末試験を過ぎればそんな初初しさ、皆無になるしなあ、と自嘲する

新入生らよ

この程度で驚いていたら、研究職なぞやってられんぞ

今はまだ学年初期だから皆まともだが、予算会議やら試験期間前後はアカデミーは驚異空間と化する

妙な色艶の栄養剤傷薬回復薬が飛び交い、爆薬の試験場は音が絶えることなく、講師陣の研究室からは提出書類が山と積まれる

栄養剤がなければマジ屍霊

ある時は爆発で髪をチリ焦がし、ある時は麻痺薬&解毒薬の実験台にされ、ある時はお返しに相手の部屋にガツシュの枝（臭い木の枝）を大量に届け、ある時には試作の酒を飲み過ぎて寝込んだ…

俺ってばよくやったと、自分を褒めてやりたい

同時に大切な何かを失った気がするが気のせいだ、うん

一年生らよ

精々今を大切にしてくれ



「はふう…」

寝みい

寝むすぎるとです

朝一番に市場に錬金素材を仕入れに走り、朝飯のあと講義の予習講義が終わったその後は、学生同士の意見交換を兼ねた昼飯やらお茶会

夕方から消灯まで、調合率だの素材＋ を変え品質効力を確認してはメモリ、片手に『初等錬金術講座』を読み耽るというスケジュールミッチリな日々を送ってから仕方ない

仕方ないたらっ仕方ない

おかげで入学二月めにして『錬金（調合）馬鹿』の称号を得てしまったが…

でも出来は良くてBクラス

…理論がどうこうとかワケワカメなので実戦あるのみなんだよ、畜生！

とはいえこのままではあんまりにも辛い

というわけで、栄養剤を極めてみようと思ったわけです、はい

ワインオニワライタケハチミツを焦げないように煮て刻んで煮込んで蒸して煮詰めた

そうして出来た特性栄養剤『超キノコエキス』

はつきり言って不味い

死にかけるほど不味い

でも一口で睡眠不足頭痛筋肉痛眼精疲労が軽くなった

ナニコノ効果抜群

よって不味いからと、このまま捨てさるのも勿体ない

ふと目についたくたびれた同期生らしき兄ーさんに『栄養剤いるか？一本50Gで』『金とるのかよ！だが断らん』で試作の一つを飲ませたんだが、目の前で鼻血と毒霧吹かれた時は流石に焦った  
しかし飲んだ当人は『不味イ！ダガソコガ良イ』とか顔を赤らめて絶賛してくださりまして

徹夜明けで死にかけてヘタレた犬の様だった目が、今や獲物を狩る猛獣のごとく猛々しい

『ミナギツテキタ』とか叫び、アカデミーの外へと走り去る姿に一抹の不安を覚えたが、まあ…大丈夫だよナ？

## 錬金術は体力（後書き）

### 【超キノコエキス】

容量：1日1回・小さじ1

材料：オニワライタケ、ハチミツ、ワイン、ホウレン草、中和剤（青）

### 栄養剤（強）

容量以上を使うと、一時的に超回復と筋力増強効果が得られるが、反動が半端ない

1本イツキなどとしてはいけない

甘さと独特の苦味が交じりあい超不味い

栄養剤として提出した評価はB+

効果はともかく、材料量（大）と副作用でマイナス

## 爆弾とチーズ（前書き）

とりあえずの投稿

爆弾話を手直し、チーズな話を付け足して投稿しなおす予定

## 爆弾とチーズ

今より五年ほど前、爆弾娘と呼ばれた武闘大会優勝な錬金術師がいたらしい

戦闘職相手に非殺レベルな爆弾で勝つとか（驚）

いくら錬金チート魔法アイテム補正があつたとしても、普通は無理だといいたい

戦闘技能つて一石一鳥で身に付くものでないし、爆弾は使うタイミングを謀らなければ避けられてお終いだ

何より誰よりあの『竜殺し』が負けるとか…

「マジですか？」

「マジだ！」

『燃える砂』の調査実習で同じ班になつた1人が、クラッシュなんちゃらかいっ『俺これ（爆弾）

のためにアカデミーに入つたんだ』とか危険物発言し腐つたので、同班になつたもう1人の女子が軽くどん引いて『爆弾好きな変態』

発言しますた

で、変態仮認定者は流石に焦つたらしく詳しい理由説明をし始めたそれが前述の『武闘大会』『爆弾娘』な話である

飛び交う粉塵

轟く爆音

派手な演出にロマン（魅）を感じたらしい

っ！かお前いくつだ

「確か…十二歳以下は大会出場見学不許可だったはず  
クラッシュ、お前年齢はいくつだ」

と、同班男子君

ナイスだ！

地味メガネのくせにやりおる

「ん？十八だが」

「2つ年上…なのか？」

「何だその反応！？ちよつと入学が遅れて、一年ほど爆弾の威力試験を兼ねた採取に入れ込みすぎて留年しただけだ！年上で悪いか！」

「いや…悪くはない」

そうだね

素行が悪いだけで

「留年最高記録者からみれば俺みたいのなんか可愛いもんだぞ」「ダメな方向で自慢されても…」

そーいや留年最高記録者つて、調合失敗で爆発おこしてばかりで『爆弾娘』とか言われていたらしいが

爆弾マニアな兄ーさん、知らないんだろぅな…

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5382u/>

---

アカデミー争論

2011年11月23日17時48分発行